

更なる前進を期して

同窓会長 大澤 肇

教育学部の構内に足をふみ入ると、大きくて立派な石材に「教育学部」と刻まれた標識が目飛び込んできます。更に構内の西方に、長良地区の旧大学敷地にあった樹木を移植した小庭園が広がり、そこに「統合移転記念公園」と刻まれた標柱が建っています。いずれにも昭和58年教育学部同窓会と記されています。これらは、先輩諸氏のご努力により建立、造成されたものです。そこから母校に対する愛着と感謝の気持ちや様々な思いが伝わってきます。



同窓会をめぐる内外の動きは、急速な変化を見せています。特に、教育学部の今後の動向について、多くの会員の皆さんは関心を寄せていられることでしょう。会報7号で「教育学部の再編をめぐって」と題して特集を組み、皆さんに情報を提供しました。大変好評を得たことを喜んでいます。その後の動きとして、本年度の評議会で佐々木学部長さんより「本教育学部の基本的な立場は、他大学との再編・統合ではなく、今まで通りよりすぐれた改革を進めながら、大学院をより充実させ教員養成という重要な責務を全う出来る学部にしていく方向で検討している。」とお話があり、一同意を強くしました。なお、佐々木学部長さんには本会報に再度ご無理をお願いして、今後の学部のあり方などについて、玉稿を寄せていただきました。ぜひ、お読みください。

今後の学部の動向は、同窓会のあり方に関わる最大の関心事です。会員の一人一人が母校に寄せる思いは、標識や標柱に具現されている先輩の思いと共通なものがあることでしょう。本会の目的に沿って、母校の発展を願い、学部の取り組みの一層の理解者として協力を惜しまない姿勢を持ち続けたいものです。

本年度、評議会の承認を得て、それぞれの部会は精力的に主事業に取り組んでいただいています。その中で、会員構成の変化、卒業生の就職状況の多様化、入学定員減少による財源確保の問題など、大きな課題を抱えています。これらの諸問題にどう対応するかについて、役員、理事、および会員の皆様の叡智を結集し、すこしでも前進したいと願うものです。

今後とも、一層のご理解とご協力をお願いします。

平成14年度 評議会記録

開催日時：平成14年6月2日(日) 13:30~16:00

場 所：岐阜大学教育学部 第一会議室

来 賓：教育学部長 佐々木嘉三先生

《出席者80名、委任状101名、委員総数189名》

1. 開会の言葉 副会長 松尾 勝美

2. 会長挨拶 会長 大澤 肇

会長より、次の報告と挨拶があった。

(1)『国立大学教育学部の再編をめぐって』について、同窓会報第7号に特集を組み、理解と協力を得た。

(2)岐阜大学地域交流協力会の報告があった。

(3)大学跡地に記念碑の建立についての説明があった。

3. 来賓挨拶 学部長 佐々木嘉三先生

学部長より、最近の教育学部の現状と今後の方向について説明があり、同窓会としての強力な支援のお願いがあった。

◎ 国立大学の独立法人化に伴う教員養成系大学・学部の再編統合について

(1)平成16年4月から独立法人化され、組織運営、財政、人事等の制度が大きく変わる。

(2)教員養成大学・学部の再編統合のため、『国立の教員養成大学・学部のあり方に関する懇談会』から3つの改編案が出され、それをもとに各大学・学部の生き残りをかけた改革案が提示されている。

(3)岐阜大学教育学部の基本的な立場は、他大学との再編・統合ではなく今まで通りで、よりすぐれた改革を進めていくことである。大学院をより充実させる等の教員養成という重要な責務を全うできる学部にしていく方向で検討をしている。

4. 議長選出 幹事 奥村 収

5. 議 事

(1)平成13年度事業報告

総務部会、組織部会、事業部会、広報部会の四部会より平成13年度の事業報告があり、これを承認した。

(2)平成13年度決算報告、監査報告

平成13年度決算報告並びに監査報告があり、これを承認した。

(3)会長候補者推挙委員会委員の選出について

評議会出席者全員による投票の結果5名が選出され、これを承認した。

下記の5名が選出された。

委員長：澤島昌彦（S33地理） 委員：野村令子（S34家政）

委員：松田孝弘（S36地理） 委員：上野日出利（S36史学）

委員：後藤忠喜（S38数学）

(4)平成14年度事業計画

四部会より平成14年度の事業計画が次のように提案され、これを承認した。

◇総務部会

教育学部の現状に関する情報提供をする。

教育実習・就職支援を積極的に行う。

◇組織部会

同窓会名簿の修正変更を行うので、理事・評議員の方々の協力をお願いする。会員連絡のための宛名印刷は事務局でできるようになる。（タックシール代は実費）

◇事業部会

平成13年度までの教育実践研究助成論文集に記載された氏名等の間違いを更に修正する。

第18集を発刊する。

◇広報部会

同窓会報第8号を発刊する。

(5)平成14年度予算

平成14年度予算案の提案があり、これを承認した。

(6)その他

・大学跡地に記念碑の建立について

男子師範及び学芸学部、教育学部の跡地である長良公園内に、記念碑を建立する案が提案され、今後前向きに検討することを承認した。

記念碑建立については、総務部会が仲立ちとなり、委員会を発足させる。

6. 閉会の言葉 副会長 山口 正和

※ 評議会終了後、各部会（第1回）と会長候補者推挙委員会が開催された。

平成13年度教育実践研究助成事業のまとめ

事業部会長 伊藤 裕之

岐阜県における義務教育の振興・充実を期し、昭和60年度にスタートを切った本事業も、今回で第17回を迎えることとなった。教職員の資質向上に寄与することを目的とし、「教育の今日的な課題を踏まえ、小中学校の教育現場に密着した実践的・研究的な内容であり、児童生徒の変容を明らかにし、説得力のある論文」が寄せられることを期待して立ち上げた本事業も、多くの方々からのご支援を得て、岐阜県教育の充実・発展に不可欠なものとなっている。

平成13年度の教育実践研究助成事業は、岐阜県教育委員会をはじめとする関係各位のお力添えにより、平成14年5月10日、「入賞論文集(第17集)」の発行をもって完結した。

1 応募状況とその傾向

県内の教職員から1,306編の論文が寄せられた。応募者1,374名の内訳は、校長14名、教頭19名、教諭等1,306名、養護教諭30名、学校栄養職員1名、事務職員2名、ALT2名である。性別では男性が748名、女性が626名、校種別では、小学校から821名、中学校から553名の応募があった。ALTからの応募は特筆すべきであろう。

論文の領域については、1,306編の内、各教科では昨年度同様、国語科、社会科、算数・数学科が多く、その内、最も多かったのが国語科の144編である。他の領域では、総合的な学習の時間に関する論文が195編と、全体の約15%を占めていた。「総合学習」の応募は国語科論文の135%に当たり、社会科の110編、算数・数学科の102編を凌いでいるのが、本年度の一つの特色である。この「総合学習」に関する入賞論文は18編を数え、過去最大であった昨年度の9編の2倍の入賞者となった。県内各地で先導的な取り組みがなされていることは、心強い限りである。

2 審査会を通して

審査に当たっては例年同様、優秀な実践研究論文が多く、委員一同激論を交わす中で、最優秀賞は、多治見市立南姫中学校の加藤早苗教諭の論文「一人一人の生き方を深める社会科指導～自ら学習に立ち向かい、社会認識を深める地理的分野の指導の在り方～」に決定した。加藤教諭の研究論文は、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒一人一人の学びに応じた指導方法の工夫が見られるところが優れている。特に、「研究実践の創造性・妥当性」と「生徒の成長や変容の姿とその記録の確かさ」において、他の追随を許さない論文である。

審査の過程で、それぞれの教育実践論文の優れている点、課題及び改善点について交流した。

(1)新学習指導要領の趣旨や内容を踏まえて取り組んだ論文が多く、つけたい

力を明確にした指導計画が立てられ、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図った指導過程や学習形態の工夫等が見られた。「学ぶ楽しさや充実感」「基礎的・基本的な内容の確実な定着」「地域人材の開発」等、教育の今日的な課題を踏まえた研究論文が多く応募された。また、研究仮説から評価に至る研究過程が的確に踏まえられ、実践を通して得られた成果や課題が日常の指導に役立つ研究論文が多かった。

- (2)「総合的な学習の時間」について、児童生徒の実態を踏まえ、つきたい力を明確にして、全校体制で取り組んだ成果に基づく論文が多かった。また、移行期間からの積み上げの成果が表れた論文があり、児童生徒の興味・関心を中心に据えた教材開発や体験的な活動等、主体的に問題解決を図る力を高めたいという教師の願いが伝わってくる作品が多かった。
- (3)児童生徒の興味・関心を中心に据えた教材開発や指導過程、一人一人に着目し、個を伸ばすことに焦点を当てた指導等、学校の教育目標の具現を意図したものが多かった。また、児童生徒のよさに目を向け、個に応じた指導・援助が的確になされている。児童生徒のノートや作品、指導に生かした資料や教材・教具等も分かりやすく位置づけられている。
- (4)「論文編」「資料編」と分けて提出される作品が多く、累積的・継続的な研究がなされている。研究の意図が明確であり、児童生徒の成長が見て取れるので好ましい。
- (5)教科研究の充実を期待したい。不易なる部分の究明を期して、教育実践を裏切るものにするよう、一層の研鑽を積んで頂きたい。
- (6)教育実践研究論文の応募を自己の教育観を構築し、教育的識見を高める良い機会として、旺盛な探求心や先駆的な視野をもって、創造的で斬新な研究に挑戦するよう期待したい。とりわけ、若い教師の果敢なる挑戦を期待する。創造的思考の発露を期待したい。

3 指導方法の改善を目指す不断の努力を

本審査において優秀賞以上の入賞者10名の受賞歴を洗ってみると、6名が過去に2回以上受賞していることが明らかになった。最優秀賞の加藤教諭は、最優秀賞1回、優秀賞1回の受賞歴がある。山田教諭はこれまでに優秀賞1、優良賞1、新人賞1の3回受賞。鷲見教諭、中島教諭、富山教諭、中川教諭の4名は、いずれも優良賞以上を2回受賞している。審査会において、加藤教諭の最優秀賞2度受賞は如何なものかで、慎重に審議した。しかし、加藤教諭の最優秀賞は、過年度(平成2年度)の受賞が図書館教育であるのに対して、今回のそれは社会科で、領域を違えている。また、研究の確かさと実践の豊かさは、岐阜県教育のレベルアップに繋がり、他の模範たるべきものであるということから、初の2度目の受賞となった。

まさしく「継続は最大の力なり」である。教職員の資質が問われている今日、真に児童生徒の力量を培うためにも、教育実践研究を質的に練り上げ、指導方法の一般化と個別化に向けて専念することが肝要となる。

教育要求に応える教育学部をめざして

教育学部長 佐々木嘉三

ここ1年以上にわたって、独立法人化を控え、国立大学、特に教育学部は劇的な改革の嵐に見舞われていると言えましょう。昨年、小泉内閣の成立直後の6月、「経済財政諮問会議」に突如出された「大学(国立大学)の構造改革の方針」いわゆる『遠山プラン』と、それに沿った形で11月には「国立の教員養成大学・学部の在り方に関する懇談会」(以下:在り方懇)の答申も出され、教員養成学部で教育研究・運営に携わっている私どもにとっては、極めて重大な方針の提案が相次いでなされました。教員採用数の減少に伴い昭和62年から始まった学部学生定員を、免許取得を卒業要件としない「新課程」に移すという動きと、更にそれを大きく加速させた平成10年からの5,000人削減計画の実行で、国立の教員養成大学・学部は、「教員養成課程」の学生定員9,750人と、「新課程」6,180人という構成になっております。『在り方懇』の組織改編についての議論では、「新課程」について一定の評価をしつつも、教育指導體制の明確化を図ってゆく観点から、原則として教員養成学部から分離することが適当であるとの方針が示されました。国立大学の教員養成課程入学定員約1万人の規模は堅持しつつ、「新課程」を廃止し、小さくなった学部等を再編統合して『骨太』の教員養成学部を創るためとして、次のような3つの改編案が提案されています。



(A)隣接した県の複数の大学・学部を統合し、教員養成に特化した大学と、いわゆる『一般大学』に再編成する、(B)小学校教員養成機能は今まで通り各大学に残し、中学校10教科の教員養成はいくつかの大学毎に分担する、(C)基幹大学とその他の大学に分け、その他の大学では小学校教員養成に特化する、という案です。そして、教員養成の強化充実を考え、将来の教員需給や学生の流動性を考慮すると、基本的には(A)案の形態で県境を越えて再編・統合を積極的に進めるとしています。

さて、本学部では審議を重ね、教員養成担当学部として地域の教育要求に応じて行こうという結論を出し、その組織形態・教育内容・教育委員会等との関係などについて検討を進めてきております。昨年11月の『在り方懇』答申内容

をふまえて、学部の組織・教育について将来設計の概略を作り文部科学省とも協議を開始しましたが、明確な回答が得られないまま推移している状況であります。ただし、この状況は全国すべての教員養成大学・学部で共通で、私どもの学部の状況は決して悲観的ではないと確信しつつ検討を継続しているということが出来ます。岐阜県周辺の7大学との意見交換は、本年3月に評議員の先生方の協力も得て集中的に行われましたが、いずれの大学も独自の計画の中で教員養成を考えて行くという方針を堅持しております。ただし、現在ほとんど協議が進んでいない様子ではありますが、三重大学は和歌山大学との再編統合を検討しておりますし、また、富山大学は県内大学との統合をする中で再編を計画中であることも伝えられております。

5月末に読売新聞で報道され、皆さんが心配されたことと推察される愛知教育大学との統合問題の協議経過を以下に簡単に述べておきます。本年2月初旬の文部科学省との協議の中で、東海地区の教員養成大学間での統合再編協議が進んでいないという指摘もあり、2月末には岐阜・静岡・愛知・三重の四大学学部長等による統合再編の懇談会が開催されました。その際は、それぞれの大学での方針・検討状況などについて意見交換を行い、本学部としては大学全体の考え方も教育学部は存続する方針が出され、県教委等からも支持されている旨の発言をしておりました。しかし、愛教大からの申し出により4月初旬に岐阜大・愛教大の学長等による懇談会が開催され、その席で3つほどある愛教大統合再編案の1つとして、本学部あるいは岐阜大学との統合再編なるものが提案されました。本学の黒木学長からは、そのような考え方を本学としては採らないことを明確に返答して、会は閉じられました。しかしその後、4月下旬に「国立大学協会(国立大学学長により構成)」の総会での議決により、平成16年4月からの独立法人化する方針が決定され、再編統合問題は新たな段階を迎えることになりました。この中で、愛教大からの一方的な情報に基づき、5月下旬に読売新聞記事で岐阜大との統合ということが報道された訳です。後日、愛教大からは本学に対して再協議の申し込みがあったとのことですが、学長等は、その方向での協議の意味はないとの明確なお断りしたと聞いております。私どもの学部は、教員養成という方向に重点を明確にし、『国立大学法人・岐阜大学』の一学部として、平成16年からの新しい歴史を創って行くという方向で進んでおります。

さて、本学部が教員養成に特化して行くということでは、教育研究内容の一層の充実を進めてゆく必要があります。岐阜県を中心とする中部地方での教育の在り方を考慮しつつ、本学部が「教員の養成」と「教員の研修」を総合的に

進める中核の大学として、自覚的に改革を進めて行くことが必要です。本年度から指導要領が改訂され、子どもたちの「生きる力」を育てる教育が求められております。21世紀の教育の在り方を踏まえて、子どもたちに「真に生きる力」を身につけさせる教育は如何に在るべきか、そのための教育者養成は如何にあるべきかという課題に答えて行かなければなりません。学部改革検討委員会を中心に「ACTプラン」と名付けた学部教育カリキュラムの改革案を作成しておりますが、教授内容の検討とともに、学部学生が自覚的・積極的に教員となる意義を見つけだしてゆく動機づけのため、入学時から子ども達と触れあい、小中学校の現場を知り、そして大学で積極的に学ぶような教育体系を作るべく、検討しております。また、教員の研修についても岐阜県総合教育センターとの連携関係を強めて、本年度から「6年目研修」の一部を既に大学で行っておりますし、来年度からは法定の「10年目研修」についても協力実施するための協議を始めております。

平成8年に研究科を設置して以来、現職の先生方も大学院へ多数入学して頂いております。特に昨年からは、地域格差を解消して教育機会の拡大をめざし、高山・多治見・各務原にもサテライト教室を設置して夜間・遠隔の大学院授業を提供してきております。授業内容の充実のため、本年度からは「カリキュラム開発専攻」も設置致しました。この専攻は、新しい教育の課題である各々の学校による特徴あるカリキュラム創り、「総合的な学習」の時間や地域の自然・文化・歴史を生かした教育の在り方など、広く今日的な教育課題に応える力量形成のために設置された専攻です。通常の勤務を終えて夜間に学ぶ現職の先生方の努力に十分応えることができるよう、大学側も努力しておりますし、研修のため研究科へ入学し、学ぶ意義は極めて大きいと考えております。残念ながら大学院へ入学した本学部の卒業生は極めて少なく、今後の岐阜県の教育レベルを向上させる上で、ぜひとも考えて頂かねばならない状況だと思っております。われわれの明るい未来を創る教育のために、ともに努力して行きましょう。

平成14年11月

教職員をめざす皆さんへ

教師になつての喜び

牛本孝之 (平成6年度教育学科卒)

私が教員になりたいと強く心に決めたのは、在学中に「岐阜シニアリーダークラブ」というサークルに所属していたことが影響しています。ここで接した子どもたちの笑顔を、今度は「学校」という環境の中で見たいと思ったのです。また、単発的な出会いではなく、子どもたちと生活を共にする中で一緒に感動を味わいたいとも思うようになったからです。そしてその思いは、教師になったことで「喜び」へと変わりました。

現在、私は女子バスケットボール部の顧問をしています。部活での生徒たちの素顔は、学校生活の中で見せているそれとはまた違っています。生徒たちは自分なりの課題を常に持ち、生き生きと活動しています。また、先輩後輩のつながりの中で見られるドラマもあり、厳しい練習を共に乗り越えています。そのような練習を積んできた大会では、時には悔し涙を、時には歓喜の声をあげて嬉し涙を流します。その1シーンに私も携わっている喜びはこの上ないものがあります。このような感動は、いうなれば教員だけの特権です。

子どもにとっては、新卒の先生も年配の先生も同じ先生です。若い時には「若さ」を、年を重ねてからは「経験」を武器にすることができます。私の場合、とにかく「声の大きさ」を生かして、どんな時にも元気に声を掛けるように努め、できるだけ多くの生徒に話しかけるように意識しています。このように年齢に関係なく仕事ができるのは、教員という職業の最大の長所だと自負しています。

思春期の子どもというのは、さまざまな悩みを抱きながら生活をしています。そんな子どもたちから相談を受けることが、しばしばあります。このように相談を受けるのは、子どもたちとの信頼関係が築きあげられているからだと思っています。時には厳しい言葉や態度で接してくる生徒もいます。しかし、そんな子どもたちの心の陰に隠れている悩みや苦しみに私たち教師が気づき、理解したとき、そこからは新たな関係が芽生えてきます。これは「教師と生徒」という関係を超えて「一人の人間」としてお互いに尊重しあって生活しているからなのです。

このような感動がたくさん味わえる教員という職業は、現在は狭き門だといわれていわれますが、逆に考えればそれだけ魅力が多い職業だという裏づけです。学生の皆さんも日々切磋琢磨して、自らの夢の実現に向けて頑張ってください。

A男と出会って…

松波敦子(平成8年度数学教育卒)

教員になって早くも6年の月日が流れようとしています。その間に大勢の子どもたちと出会い、たくさんの思い出を作ってきましたが、中でも現在の学校に赴任した1年目に担任したA男との出会いは、生涯忘れられないものになりました。

A男は障害をもつ児童であり、人とコミュニケーションをとることを苦手としていました。そのため、私ともなかなかなじめず、いつもパニックを起こしていました。私は、「どうしたら彼が私の方を向いてくれるのか」と考え続ける毎日を送っていました。そんなA男の心と私の心を結びつけたのは、ある1枚の絵でした。

A男は恐竜が大好きで、いつも図書館で恐竜の本を借りて読んでいました。そこで私は、「恐竜の絵を描けばその絵を描いている私にも興味をもってくれるのではないか」と考え、彼の隣の席で大きな画用紙を使ってティラノサウルスの絵を描くことにしました。私の絵ができあがるにつれて、A男はちらちらとこちらに視線を向けるようになってきました。そして絵が完成すると私を見つめ「先生、ちょうだい」と言ったのです。いつもならほしい物は相手のことなどお構いなしに奪っていくA男が、「ちょうだい」という言葉を使って私とコミュニケーションを取ろうとする姿にとっても感動しました。そしてこの日から2年間、毎日10枚の恐竜の絵を描き、そしてその恐竜の話をするのがA男と私の日課となったのです。

その後A男は、自分の描いてほしい物を言葉を使って伝えたり、学習の時間と休み時間を自分で判断して行動したりするなど、驚くほど成長していきました。そして自分に自信をもって中学校へと進学していきました。

このA男との出会いで、私はたくさんのことを学びました。本当の意味で子ども一人一人を見つめるというのはどういうことなのか。どの子にも伸びようとする芽があり、その芽を見つけ出すことがその子の成長を支えることになること、そして何よりも、子どもの目線で物事を考え一緒に活動することで、心が通じ合うこと、そしてそれはとても楽しいことであるということ。

現在私はB子と学んでいます。彼女のよさは何なのか、伸びていく芽は何なのか、B子と一緒に探しながら毎日の生活を楽しくしていきたいと思っています。

教員採用等の就職状況

総務部会長 岩田恵司

平成15年度岐阜県の教員採用試験の結果について

岐阜県の教員採用試験2次合格者数は、小学校129名、中学校121名、高等学校66名、特殊教育21名の合計337名であった。

臨採等の合格者数が全体の約2/3を占める中、教育学部卒業生(既卒者)は、59名(占有率31%)と極めて低い状況であるといえる。いずれにしても、岐阜大学教育学部では、現役者、既卒者を合わせた小中学校での占有率は40%で低い状態と言わざるを得ない。

岐阜大学教育学部での合格者数は以下に示す。

平成15年度岐阜県教員採用選考試験講座別校種別合格者数(現役者)

講座名	小学校	中学校	高等学校	特殊教育	合計
国語	6	1	1		8
社会	史学	1			1
	地理学	2	1		3
	法律経済	1			1
	哲学	1			1
数学		5			5
理科	物理学	1	1		2
	化学				0
	生物学	1	1		2
	地学	1	1		2
音楽		1			1
美術		2			2
保健体育	1	1			2
技術					0
家政	4	1			5
英語	4	3			7
障害児				1	1
学校教育	教育学	1			1
	心理学				0
生涯	2	1			3
生涯課程	1				1
合計	26	20	1	1	48

平成15年度岐阜県教員採用選考試験校種別志願者及び合格者数(現役者)

学校種別	学 部 生			大 学 院 生		
	志願者数	1次合格者数	最終合格者数	志願者数	1次合格者数	最終合格者数
小 学 校	85	52	26	9	3	1
中 学 校	62	30	20	13	9	5
高等学校	3	3	1	4	4	2
特殊教育	7	2	1	1	1	0
合 計	157	87	48	27	17	8

平成15年度岐阜県教員採用選考試験校種別合格者数(既卒者)

学校種別	13年度	12年度	11年度	10年度以前	合 計
小 学 校	3	5	6	8	22
中 学 校	9	7	6	3	25
高 等 学 校		1	1	4	6
特 殊 教 育		2	1	3	6
合 計	12	15	14	18	59

教育学部の教員養成に関する実践的取り組み

小中学校教員免許状取得のために、介護実習、教育実習の実施が定められている。現在、介護実習は、事前指導の後2年生が県下150の養護、福祉、更生施設などで5日間行っている。教育実習は小中学校で各4週間行っている。

これらの実習の他に、本年よりインターンシップの一環として、4年生の教育ボランティア活動が岐阜市教育委員会等のご協力を得て、岐阜市内小中学校5校で実施されている。

かつて此処に、青年師範学校ありき

—青春の思い出としての記念碑建立—

平成14年4月4日、春風に舞落ちる桜の花びらが降りしきる中で、『岐阜青年師範学校跡』の記念碑除幕式が挙行されました。幅120cm・高さ90cm・厚さ15cmの黒御影石の碑は、かつての青年師範学校の校門跡（現在は不破高等学校の校門）の右、桜の大樹の下に建てられました。自然石を土台にし、遙か飛騨の山々を望み濃尾の平野を見下ろして、私達の青春の思い出として残ることになりました。

尚、除幕式には京都や福井など遠方からも参加された方々など同窓生約80名は、今を去ること5～60年前あの戦前戦後の動乱期に青雲の志を抱いて集まり散じた人々であり、久しぶりに逢う仲間と肩をたたき合いながら、過ぎし日を偲びつゝ碑に向かって『濃尾の平野 眼に展ぎ、南宮山を負うところ……』と、全員で懐かしい校歌も合唱しました。



あれから半世紀余の歳月が流れ、記念碑建立などとは無理なことでしたが、一昨年、岐大教育学部同窓会の評議員会が開かれた折「かつて私達が学んだ宮代の地に、確かに此処で『青春の一頁』を繰り広げたという記念の何かを、あの朝倉の丘の一角に残すことは出来ないものか」という話が発端でした。

そこで評議員の方々のお骨折りによって、昭和17年から26年まで在学された同窓生全員に呼び掛けられ、全体の意向をまとめられた結果、賛成多数ということで、母校を思う同窓生300余名の熱い想いは、77万円という多額の基金となって建立の運びとなりました。また建立については不破高等学校の御好意や地元・西濃地区の『青師の会』の会長さんをはじめ、有志の方々の約一年間にわたってのご努力によるものです。除幕式の当日は各学年の代表者によって、桜吹雪を浴びながら念願の記念碑は除幕されました。

機会がありましたら、是非、朝倉の丘にのぼってこの記念碑をご覧ください。そして教えを受けた恩師や、彼の大陸や南溟の果てに散っていかれた先輩を、或いは早く鬼籍に入られた同窓生の御冥福を祈ろうではありませんか。

(文責・内田)

各同窓会の活動

国語科

(事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 横山 真一)

昭和28年4月入学者による「二八国文科会」(会長・松野知文氏)が8月第4土曜日に開催。同窓会誌「ながら6号」を発行。また、学年ごとに定期的に同窓会を開催し、近況の交流をしている。

社会科(地理)

(事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 奥村 雅人)

1 第28回同窓会「濃飛の集い」…… 第34回生(代表 稲川 貴士)が担当
期日 平成14年8月3日(土)

会場 大垣市歴史民俗資料館

内容 総会 海外レポート「パキスタン風土記」昼飯大塚古墳の見学

(1)総会

- ・自己紹介(近況報告)
- ・会計報告
- ・事務局より

(運営委員長より機関誌『濃飛』の今後のあり方に関する提言)

(2)海外レポート「パキスタン風土記」

岐阜市立華陽小学校教諭 安田 幸典

安田教諭は、平成10年度より3年間、海外日本人学校派遣教諭としてパキスタンのイスラマパード日本人学校に赴任された。今回は、その赴任先の様子を「パキスタン風土記」と題して、自然環境・食文化・観光・政治情勢など、多岐にわたって報告された。海外での豊かな経験をもとにした楽しい話を聞くことができた。

(3)昼飯大塚古墳の見学

大垣市教育委員会文化振興課の中井正幸先生の説明により、県下最大の前方後円墳である昼飯大塚古墳を見学した。

2 機関誌『濃飛』第33号発刊

3 次回の活動予定 平成15年8月2日(土)

第35回生(代表 寸田 良隆)担当

社会科(哲学)

(事務局 岐阜市立加納小学校 桑原奈津子)

平成14年度活動報告

1 哲学科同窓会「夏の集い」

開催日 平成14年8月17日(土)

会 場 グランヴェール岐山

内 容 講演「男女共同参画社会とは何か」

岐阜大学教育学部哲学科 小林 月子先生

講演「新聞に未来はあるか」

中日新聞社 野田 正敏さん（平成2年度卒業）

2 定例代議員会

開催日 平成14年8月17日（土）

会 場 グランヴェール岐山

内 容 平成13年度事業報告 会計報告

平成15年度事業計画

毎年開催している「夏の集い」には、今年度、会員26名、大学より小澤先生、小林先生のご参加をいただき、28名が集まった。今回集まった会員は、昭和28年度卒業生から平成10年度卒業生まで。若い世代の参加者も増えている。

講演は、真の男女共同参画社会の在り方や情報化社会における新聞の役割について、考えを広げたり深めたりするよい学びの場となった。また、講演の後には有志で会食をし、旧交を温めることもできた。

数 学 科

（事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 寺田 圭子）

1 総 会（隔年5月）

次回は、来年平成15年5月の開催を予定している。

2 同窓会名簿「わしょう」の作成

平成15年度の発行をめざし、今年度は、同窓会運営委員会を中心に、名簿の訂正作業等を行った。

3 今年度の活動予定

3月に運営委員会を行い、総会の準備等を行う予定。

理 科（物理）

（事務局 白川町教育委員会 鈴木 雅史）

事務局では平成14年度の会員住所等を調査し、同窓会名簿を作成した。今後、配布を予定している。

また、同窓会は学年ごとで開催され、近況の交流がなされている。

理 科（化学）

（事務局 岐阜県立関養護学校 華井 章裕）

1 総 会：（隔年8月ごろ）

平成14年8月11日（日）開催

- ・事業報告・会計報告・監査報告・規約改正
- ・役員改選 [新会長：後藤 正之（S41年卒）]

- ・事業計画
- ・講演「スプリングものがたり」加藤 允可氏(東郷製作所、S37年卒)
- ・懇親会 出席37名
 - 「同窓会報：かんきせん」第15号 11月発刊予定
 - 「同窓会名簿」(平成14年度版) 11月発刊予定
- 2 「岐阜かがく教育研究会」の活動
 - 化学科に限らず、他の学科、他の大学出身者も共に研究活動をしている。
 - 総会：平成14年12月27日(金)午後6時半
 - 会場：岐阜グランパレホテル(予定)
 - 研究発表会：年1回11月下旬(岐阜大学附属中学校の予定)
- 3 「修士論文及び卒業論文発表会」及び「追い出しコンパ」への参加
 - 毎年2月に開催される修士論文及び卒業論文発表会とその後に開催される追い出しコンパに、OB10名ほどが参加し、実業界からの助言や学校現場からのアドバイスがなされ、在学生との交流が深められている。

理科(生物)

(事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 船戸 智)

- 1 総会(隔年、次回16回目の総会は平成15年8月に予定)
 - 同窓会員の研究実践の交流及び、親睦と最近の教育学部生物科の卒業研究報告会を兼ねて行っている。
- 2 生物教育研究会(2ヶ月に1回、実践交流会は毎年12月の第2日曜日の予定)
 - 同窓会員の自主的な自然観察及び、実践交流を主な目的とした「生物教育研究会」が平成13年12月に発足。本年度は、蛭ヶ野高原、琵琶湖博物館、岐阜県博物館等で観察会を行ったほか、12月7日に、附属中学校で実践交流会を行う予定。
- 3 機関誌「岐阜の生物」
 - 毎年12月に発刊、全会員に郵送している。(本年度は第15号を発刊の予定)

理科(地学)

(事務局 岐阜県博物館 古田 靖志)

地学科は、平成14年度同窓会や総会等は開催しなかったが、有志の集まりによる地学教育の研究会や親睦会などを行った。今後は多くの仲間呼びかけて、一層輪を広げていきたいと考えている。

音楽科

(事務局 糸貫町立糸貫中学校 棚橋 弘)

音楽学科では、同窓会事業として、3年に1回の総会・懇親会の開催と名簿の改訂及び全会員への配布、及び年1回の会報「間」の発行を行っている。

前回の総会は平成13年、恩師10名をお迎えし、会員100名の参加を得て盛大に

開催された。今回は平成16年に予定している。

本年3月に第50回生16名を迎え、全会員958名と発展をしてきたが、私たちは過去34年の活動の中で、会員の動向等についてもほぼ全員について把握できているなど、強い人間関係を築くことができたと自負している。

本年10月27日、理事会を開催し規約の一部改正をした。また、11月1日付けで会報「間」第32号を会員全員に送付した。

体 育 科

(事務局 各務原市立鷺沼第三小学校 石子 裕朗)

- 1 6月8日(土)に14年度総会(87名出席)を開き、下記の事項を審議し、承認した。
 - (1)13年度事業報告、会計報告及び会計監査報告の承認
 - (2)14年度事業計画、予算の承認
 - (3)役員はこのまま継続
- 2 役員会及び常任理事会を14年1月～6月の間に6回開き、下記について検討及び実施した。
 - (1)在学生優秀選手の選出の検討及び表彰
 - (2)同窓会入会式の検討及び実施
 - (3)「同窓会総会」及び「還暦祝いの会、懇親会」の計画及び開催
- 3 同窓会員名簿の次回発行は平成16年度の予定である。

技 職 科

(事務局 岐阜大学附属中学校 吉田 竹虎)

技術・職業学科は、3年に一度名簿の改訂と、同窓会総会・懇親会を開いている。今年度(平成14年度)は、その年にあたり下記報告する。

平成14年度同窓会は10月27日(日)に関市にて開催した。本科の同窓会総会・懇親会は、各地域を順に回る形式で行っている。会員は「その地域でしかできない体験をすることができる」「地域の人材の縦の繋がりができる」と概ね好評です。

今回は「美濃地区」の先生方のご尽力により、関市の刃物博物館の見学をした。「関市の刃物」は有名ですが、実際に実物を見ながら、話を聞き、体験するという活動は有意義な一時になった。

また、今回の総会で、これまで長きにわたり、会長の職を勤められた若園正之先生が、名誉顧問となり、副会長であった山名 忠先生が新会長に就任された。新会長は、岐阜大学名誉教授でもあられます。新会長のもと、さらに会が発展していくことを祈念している。

家 政 科

(事務局 岐阜市立西郷小学校 佐藤 恵)

- 1 平成14年度の活動
会員名簿の作成
平成14年度版を作成し、年次代表者に配布した。
- 2 今後の活動
(1)総会(同窓会)開催は、5年毎。
次回は、平成16年度に開催予定。
(2)会員名簿の作成(年次代表者向け、毎年発行)

英語英文学科

(事務局 岐阜教育振興事務所学校教育課 杉山 博文)

- 1 平成14年度の活動
・会員名簿の活動
平成12年度版に基づき、各期評議員を通して校正を行った。
- 2 今後の活動
(1)総会開催は、3年毎。次回は、平成15年度に開催予定。
(2)会員名簿の作成
- 3 平成15年度の活動予定
(1)第1回本部役員会(平成15年10月頃)
 - ①名簿作成について
 - ②平成15年度総会開催についての検討
- (2)理事・評議員会(平成15年11月 岐阜柳戸会館)
 - ①各理事及び評議員の近況報告
 - ②これまでの活動内容と今後の計画についての連絡
 - ③平成15年度総会開催についての検討と確認
- (3)第2回本部役員会(平成16年1月)
 - ①総会の運営にかかわって確認等
 - ②名簿作成の進捗状況
- (4)平成15年度総会(平成16年1月)
 - ①総会(会務報告、会計報告、役員改選、会長挨拶、役員紹介、名簿作成報告)
 - ②講演会

一・編集後記・一

☆ 同窓会報 第8号のお届け

「光陰矢のごとし」、年とともに1年があっけなく過ぎ去っていく。「少年の1日は短く、1年は長し」とは、対照的である。これは、日々の記憶が薄れ大きな出来事しか残らない、言わば老化現象である。が、さらに言葉を変えれば、簡単に忘れ去ることができる老人力でもある。深刻なデフレ、北朝鮮による拉致事件、サッカーのワールドカップ、二人同時のノーベル賞受賞、この4つぐらいしか思い出せない平成14年である。その14年も師走に入り、同窓会報をお届けする時期になった。

☆ 青春を蘇らせる記念碑

現在の大学構内敷地の西側に、長良にあった旧大学から樹木を移植した小庭園がある。そこに「統合移転記念公園」の標柱が建っていることを大澤会長が紹介している。また、不破、宮代の地、朝倉の丘（現在の不破高校校門）に、「岐阜青年師範学校跡」の記念碑が建立され、今年の4月にその除幕式が盛大に行われたことが内田先輩から紹介されている。さらに、6月の評議会では、男子師範及び学芸学部、教育学部の跡地でもある長良公園内に記念碑を建てたらという提案がなされ、現在その実現に向けて営々努力されている。いずれも、かつての青春時代を思い出させる事業。できたら、ぜひ1度その跡地を訪ねたいものである。

☆ 新進気鋭の先生からメッセージ

新企画として、現場で活躍してみえる若い先生方の声を掲載することになった。そのトップバッターが牛本孝之先生と松波敦子先生。両者とも教師という職業に大きな希望をもち、嬉々として日々活躍されている。牛本さんは、部活を通し、苦勞と感動を共有しながら生徒との人間関係を、松波さんは、子供の得意分野に身を投じて、心と心の結びつきを図っている。学びあいながら、しかも苦勞を喜びに変えて、成長し続けている牛本さんと松波さんに拍手。

☆ 岐阜県教員採用の結果から

教員養成大学・学部の再編統合が大きな話題になっているときだからこそ、とりわけ教員採用結果が注目される。今年の採用結果をみれば、昨年度の第7号で岩田総務部会長が指摘した次の2点に尽きるようである。すなわち、教員志望数を如何に拡大するか。採用試験の合格率及び合格者数における占有率をいかに高めるか

この教員採用試験の結果は、先の編成統合の問題に大きな影響を与えるばかりでなく、同窓会組織の存亡にかかわる問題でもある。さて、どうするか。(f)

第8号 平成14年12月発行

発行者 大澤 肇

発行所 岐阜大学教育学部同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

岐阜大学教育学部内

TEL・FAX 058-293-2344